

このボンベを 2 時間～2.5 時間で使い切るペースで走行の計画を立てた。

実際には Nexa のパワーを最大にすればもう少しガスの消費が速いのであるが、Jonasun コンバーターの最大出力が 700W であった為、無理せずに走行した。それでも Nexa が発する熱は車内の温度をいやおうなしに上げた。もしこれが日本の冬ならば暖房の熱源に丁度良い位である。



Jonasun の走行記録

総走行距離	3021km
総走行時間	2853 分 (47 時間 33 分)
総消費電力	821.2Ah (45.5kwh)
平均消費電力	約 958wh
燃料電池総発電量	457.9Ah (25.4kwh)
Solar 総発電量	362.4Ah (20.1kwh)
使用ボンベ数	25 本 (1100L/本) 1100(L)×25 本=27.5kl
Batt 電圧	定格 55.5V

Jonasun の走行記録

走行データは上の表のとおりであるが、今回の我々のチャレンジは記録に残らない参考出走であったものの、3021km を 47.5 時間で走り抜けた走りは十分に快適なドライブの実現であっ

た。ボンベ交換の際に毎回 10 分程停車した時以外は巡航速度 75～85km/h で走り続け、消費したエネルギーは平均 957Wh、まさにヘアドライヤーよりも少ないエネルギーで 3000km 超を十分な速度で駆け抜けたのである。しかも半分は太陽のエネルギー、もう半分は水素のエネルギーで、排出したのはわずかな純粋な水だけである。

この挑戦を海外のメディアに説明する為に用意したリリースに我々は次の言葉を掲げた。

我々は近い将来石油が無くなった時の事を考えて挑戦している事・・・

Jonasun はその未来の扉を開いた事・・・

WSR には 2003 年から FC 部門がある事

さて・・・このような新しい取り組みを秋田県の大会が世界に先駆けて推進している事を多くの県民はご存知ないかもしれない。1993 年に当時の佐々木知事が世界中のエンジニア達にガソリンが無くなった後に備える為の実験室として大潟村でレースを開催した。また 2003 年からは世界初の燃料電池部門が加わり、多くの成果が現れている事等々……。昨今、日本の自動車メーカーが海外に誇る先端技術を構築出来た事にも、秋田県は多くの貢献を果たしていると云っても過言ではないはずだ。

次にこの紙面をお借りし、我々が考える次なる未来への計画を紹介させていただく事にします。